



10代から、自分で守ろう、わたしの健康 〜予防接種&検診で子宮頸がんを予防しよう〜

10〜20代の皆さん、健康で心がけていることは何ですか？

新型コロナウイルス感染症の流行が長引いています。マスク・手洗い・換気・人との距離など、さまざまな感染症対策を心がけ、ご自身やご家族の健康管理に努めていることでしょうか。

今回ご紹介する内容も、ある感染症に係るお話です。20〜30代の若い女性に増えている「子宮頸がん」を予防するために、今からできることをお話しします。

子宮頸がんとは

子宮は、赤ちゃんを育てる働きをもつ臓器です。入口(膣側)から3分の1を頸部、その奥の部分(子宮体部)といいます。子宮頸がんは、頸部にできるがんで、日本では毎年、約100000人の女性がかかり、約29000人の女性が亡くなって

います。特に若い女性が増えており、30代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)方は、年間1000人にも上ります。

子宮頸がんから身を守る2つの方法

- ① HPVワクチンで感染を予防する。
 - ② 検診でがんを早く見つけて治療する。
- この両方が大切です。



① HPVワクチンで感染予防!

子宮頸がんの原因はHPV(ヒトパピローマウイルス)

子宮頸がんの主な原因となるのが、HPV(ヒトパピローマウイル

ス)です。HPVには200種類以上のタイプがあり、子宮頸がんの原因となるタイプは少なくとも15種類あります。性交渉の経験がある人は誰もが感染する可能性があり、女性の約80%が生涯のうち一度は感染すると推定されています。

HPVに感染しても、約90%は免疫力によってウイルスが自然に排除されますが、10%の人はHPVの感染が長期間続くことで、数年以上かけて子宮頸がんに進行していきます。

HPVワクチン接種について

現在、小学校6年生から高校1年生の女子が、定期の予防接種の対象者となっています。村では、今年4月に、標準的接種時期にあたる中学校1年生から高校1年生の女子の保護者の方にご案内と予防票をお送りしています。接種は、近隣の医療機関において予約制で

実施しており、無料です。予防接種の効果・副反応などについて理解したうえで、接種をご判断ください。

ワクチンは、「サーバリックス(2価)」「または「ガーダシル(4価)」の2種類があり、接種間隔は異なりますが、それぞれ6か月の間に3回筋肉注射を行います。

これらのワクチン接種により、子宮頸がんの原因の50〜70%を占める、HPV16型と18型の感染を防ぐことができ、前がん病変を予防する効果もあることがわかっています。

新型コロナウイルスを接種するときは、2週間以上の間隔を必要とありますが、ご注意ください。

HPVワクチンの安全性とリスク

このワクチン接種は、平成25年4月から定期接種となりましたが、その後、接種した部位以外の体の痛みが続くことなどの副反応が報告され、積極的に接種をお勧めしていませんでした。

国の専門家による会議で審議を続けた結果、安全性について特段の懸念が認められないことが確認されたとともに、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたため、今年4月

から接種をお勧めすることになって
います。

定期接種の機会を逃した方への
「キャッチアップ接種」

平成9年4月2日〜平成17年4
月1日生まれの女性の方は、令和
4年4月から令和7年3月までの
3年間に限り、HPVワクチンを
公費で接種することができます。
対象となる方へは、今年4月にお
知らせを送りしています。接種
を希望する方には予診票をお渡し
しますので、担当課までご連絡く
ださい。

9価HPVワクチンについて

新たなワクチン「シルガード9
(9価)」も令和3年2月より国内で
販売されるようになりましたが、
まだ定期接種の対象ではないため、
公費で受けることはできません。
子宮頸がんは、若い方がかかり
得るがんなので、9価ワクチンが
定期接種となることを待つよりも
定期接種の対象年齢のうちに
HPVワクチンを接種しておくこ
とをお勧めします。

②検診でがんを早期発見・ 早期治療！

20歳になったら子宮がん検診を受
けましょう

「HPVワクチンを接種したから
安心」とはいえません。20歳からは、

毎年子宮がん検診を受けることが
大切です。前がん病変や初期のが
んの段階において発見することで、
すみやかな治療、将来にわたる健
康につながりましょう。

村のがん検診は、集団検診と個
別検診がありますが、今年度の場
合は、令和5年2月28日まで個別
健診として、医療機関にて無料で
受けることができます。ご希望の
方は、担当課までお申し込みくだ
さい。

HPVワクチンに関する 相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき／
接種を受けた医師・かかりつけ医
師

不安や疑問があるとき、困ったこと
があるとき／

県健康医療局医療危機対策本部室
☎045(210)4791

県教育局指導部高校教育課
☎045(210)8260

HPVワクチンを含む予防接種、そ
の他の感染症全般についての相談／

厚生労働省感染症・予防接種相談窓口
☎050(3818)2242

予防接種による健康被害救済に関
する相談／

保健福祉課 ☎(288)3861

保健福祉課保健予防係

☎(288)3861



HPVワクチンに
関する情報

診療所だより



煤ヶ谷診療所
渡邊医師

メタボリック シンドロームについて

こんにちは。煤ヶ谷診療所の渡邊です。

皆さん、今年の健康診断を受けましたか？やまび
ご健診や特定健診は、普段の生活を見直すよい機会
になりますのでぜひ受けてください。

健康診断へ行くと体重や身長を測定すると思いま
すが、皆さんからよくご質問があるのはメタボリック
シンドロームです。「メタボ」と聞くと、体型、つ
まり腹囲や体重のみで判断されると思われがちです
が、本当はコレステロール値や血糖値の採血項目、
血圧も合わせて判断します。メタボリックシンドロ
ームは、単なる太りすぎではなく、脳卒中や心筋梗塞

など動脈硬化によって引き起こされる病気の予備軍
とも言えます。

高血圧や糖尿病、脂質異常症は単独でも動脈硬化
のリスクがありますが、組み合わせることによって
さらにリスクが上昇します。命に関わる病気を予防
するために、現在症状がない方でも治療を開始したり、
生活習慣を見直したりする必要のある状態がメ
タボリックシンドロームです。体重、腹囲は普通の
生活でも測定できるかもしれませんが、しかし、採血
は症状がなければ年1回も実施しない方がほとんど
かもしれません。

自分自身の健康チェックのよい機会だと思って、
今後も健康診断を積極的に受ける方が増えることを
願っています。



問 県立煤ヶ谷診療所 ☎(288)1352